
一人一人の未来

spas12K

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一人一人の未来

【Nコード】

N1441Z

【作者名】

spas12k

【あらすじ】

空に身を委ねる鳥と、大地に身を宿す獣。

それぞれが手に入れたのは「能力」ちから

黒い羽根に宿された力を求め、欲望の姿が現れる。

戦うための道具、守るための道具。

相反する作られた「物」が今動き出す。

逃げる少女と、出会う少年の物語。

コウモリの居場所（前書き）

初めての投稿です。

悪い点があればどんどん送ってください。

コウモリの居場所

夜の十一時を超えたころ、廃墟と化した工場に散発的な明かりが灯る。

静寂を破るように乾いた爆発音が休み無く轟く。

二人の男女が死力を尽くし、ひたすらに走っている。

男は背が高くやや老けた顔に白が混じったひげが顔を覆っている。

背中には大きな傷があり、流れ出る血が地面に跡を作っている。

もう一人は小さな少女、病院から出てきたのか、研究所から出てきたのか。

詳細は分からないが、変わった服装に黒い外套を羽織っている。

「ルウ、この先は……一人で行け。俺と一緒にでは……いずれ捕まる。

お前だけは……捕まるわけにはいかない」

「おじさんはどうするんですか？」

苦痛の混じった声で少女を逃がそうとする男。

別れることに不安を抱く少女が、相手の身を案ずるように尋ねる。

「大丈夫だ……それよりも、とにかく逃げる。あいつらは俺が引き止める」

「でも……」

「行け!!」

なおも食い下がる少女を男は強引に突き放す。

「おじさん……」

「死なないでくれ……ルウ」

開けて闇夜でも目につきそうな道に走り去っていく。

真逆の方向に人目の無さそうな小道を少女は逃げる。

初めて見える世界（前書き）

塾帰りに傷ついた男性と出会った主人公。

助けて欲しい人がいる、力添えを求める男に戸惑う少年。

そして動き始めた戦いの歯車が回りだしたことを知ることになる。

初めて見える世界

等間隔で並ぶ自販機の明かりの前を、教科書の入った鞆を背負って歩く。

右手には夜食に食べるプリンが握られている。

平和な日本でも、受験や就職と他人との争いは学生の悩み種だ。角を曲がるうとした時に、何かに吹き飛ばされる。

「痛っ」

後頭部を舗装された道路に直ぶつけ、焦点が合わなくなる。

よるめきながら立ち上がると、誰かに腕を引っ張られていく。

衝撃で通常の判断力が失われていたせいか、抵抗することができなかった。

ぼやける目に映ったのは深い溝が刻まれた顔と背中 of 大きな傷。鼻に血の匂いが漂ってくる。

いつの間にか公園の茂みに隠れていた。

正常な機能を取り戻した頭は意外なほどすつきりしていた。

ふと右を向くと木を背にして男が倒れていた。

「おじさん、大丈夫ですか!？」

傷だらけの体に憔悴しきった顔。

声をかけずにはいられなかった。

「今救急車を呼ぶので安静にしてください」

ポケットから携帯を取り出し、番号を押していく。

その携帯が閉じられる。

「どのみち助からん……それよりも、娘を……私の大切な娘を……助けてはくれないか？」

その男性の風体はどう見ても襲われたとしか言えない。

「娘さんも誰かに追われているのですか？」

「察しがいいな……そういうことだ」

「私に娘さんを助けると？」

「もう……頼める人はいない……頼む！！」

肩を強くつかまれる、その力は切に助けを求める気持ちが入められていた。

断れない。

「私でよければ」

「ありがとう……」

感謝の言葉を男はいきなり腕に注射の針を刺した。

「何ですか！？」

「力がなければ……戦えない……君には辛い未来が来るはずだ……
すまない」

意味深な言葉を残して、最後の力を振り絞って立ち上がる。

「後は導いてくれる……君は安全になるまで隠れていてくれ」

そういつて、公園の中央　とても人目の付くところに出る

次の瞬間、彼の体を真っ直ぐな光線が貫いていた。

「えっ

体に戦慄が走る、恐怖が心を鷲掴みにする。

そこに、白い翼を持った　天使　と呼ぶに相応しい存在が

現れる。

地面に降り立ったソレは、剣を振り下し、男の首を撥ねた。

男の死を確認すると剣をおさめあたりを見渡す。

茂みに隠れていなければ見つかったかもしれない。

二つになった体を両手に持ち上げて、ソレはどこかへ飛び去って行った。

過ぎ去った恐怖に安堵を覚えたとき、体の力が抜けてその場に倒れる。

最後に感じたのは、口に入った土の味だった。

プログラム

誰かの呼ぶ声がして目が覚める。

（ここは？）

ぼんやりとした視界が鮮明になり、自分の状況が把握できるようになった。

「ガラスの中？」

気が付くとカプセルの中に入っていた。

それだけでなかった。

頭や首、足や手に病院の検査で使うような機械が取り付けられている。

『目が覚めましたか？』

頭の中から声がする。

「誰？」

あたりを見渡しても人影はいない。

狭い部屋の中、等身大のカプセルと周りを囲む機械だけだ。

『私は貴殿の力となりうるものです』

「俺の？」

『仔細は後で説明します。システムのインストールを開始します』

機械の合成音声、その言葉を合図にか周りの機材が動き出す。

頭のメットからゴーグルが現れ視界を遮ぎった。

急に頭が真っ白になる。

「……………」

何も考えず、呆けてしまう。

『身体異常は皆無。脳機能正常。起動承認。』

メインサーバとの接続完了。

サブサーバとの接続完了。

各機器の電圧正常を確認。

プログラムA系統からD系統まで解凍開始。
解凍完了。

システムのダウンロード開始』

不思議な言葉の羅列を並べ、周囲の機械が動き始める。
「ゴールのせいでは何が起こっているのかわからない。」

『システム1をダウンロード完了

システム2をダウンロード完了

システム3をダウンロード完了

システム4をダウンロード開始……』

順調に作業が進む中、遠くで何かが発火する音がする。

『システムエラー。外部より襲撃者を確認。

電源施設に深刻な損傷、システムのダウンロードは続行不能と判断。

システム5以降はダウンロード中止。

システム2・3・4を圧縮凍結。

システム1をインストール準備状態で固定』

カプセルが開き手足の器具が解除される。

頭のぼんやりした感じもなくなり、体も自分の思うとおりに動く。

『ミスタ、敵が迫っています。安全地帯へ誘導します』

「敵が来ているの？」

『肯定』

「あれ？ さつき力をどうとか言ってなかった？」

『システムのインストールをしません。』

システムの使用には初期起動が必要。

現在勝算はありません、避難を推奨します』

頭の中の声を聴いている間に、幾度もの轟音が鳴り響きそれが近づいているのが肌で感じられた。

直感的に危険が迫っているのを感じる。

「逃げ道を教えて」

『了解。部屋を出て直進、突き当りを右へ。

階段を上がり一階へ』

誘導する声に従い施設の中を進む。

見たことのない建物だが、誘導は正確だった。

『警告。六時方向より正体不明の敵が接近中』

「えっ、うそでしょ!？」

直後に真後ろで何かが爆発する。

振り返ると燃え盛る帆の背景に人影が一つ現れた。

ゆっくりとこちらに歩み寄ってくる。

『ミスタ、回避を。三時方向の道を進んで外へ出てください』
言われた方向に全力で駆け出す。

外へ繋がると思いき大きな鉄製の扉を見つける。

『その扉から外へ』

外に出るといくつかの施設が現れた。

『30m先の倉庫に車両があります』

あそこまで行けば助かる。

そう思ったとき、壁を破壊して再び襲撃者が目の前に現れた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1441z/>

一人一人の未来

2011年12月7日00時51分発行